

情報通信審議会情報通信技術分科会 ITU 部会  
周波数管理・作業計画委員会第 7 回会合議事概要

1 開催日時

平成 27 年 5 月 15 日（金）10：00～13：15

2 場所

総務省（合同庁舎 2 号館）10 階 共用 1101 会議室

3 出席者（敬称略）

・専門委員：

小林 哲、阿部 宗男、岩間 美樹、小笠原 守、小川 博世、加保 貴奈、  
田村 知子、西田 幸博、橋本 明、松永 彰、矢野 由紀子

・関係者：

東 充宏、荒田 慎太郎、安澤 徹、石田 和人、伊藤 信幸、植田 由美  
亀谷 収、加茂 公朗、河合 宣行、北澤 弘則、工藤 正博、久保田 文人、  
河野 健司、庄木 裕樹、上土井 大助、高尾 浩平、礪 琢己、鞆田 健、  
服部 光男、三留 隆宏、山内 洋

・事務局：

新田 隆夫、岩間 健宏、塚田 淳一、桐山 真美、大江 慧知、芦澤 宏和、  
斧淵 康久

4 議事

1 RAG 会合（2015 年 5 月）の結果について

2 SG1 ブロック会合への対応について

(1) 提出日本寄与文書（案）の審議

(2) 外国入力文書に関する審議

(3) 対処方針（案）の審議

3 その他

5 議事概要

議事に先立って、事務局より、新たな構成員として、大松澤委員、小笠原委員  
及び松永委員の紹介を行った。

(1) RAG 会合（2015 年 5 月）の結果について

資料 7-1 の 2015 年 5 月 RAG 会合報告について、事務局より説明が行われた。  
主な質疑応答は以下のとおり。

（専門委員）決議 1 は概ね集約できたのか。

（専門委員）多くの項目を入力したが、8、9 割は取り入れられたと思う。ただ、

無線通信総会（RA）に向けて大きく作業は進捗したものの、まだ議論の余地がある箇所も多く、また、コレスポネンスグループ（CG）の活動に参加していない国も多いことから、今後意見を出してくる可能性がある。我が国としても、再度見直しを行い、最終的な提案をする必要がある。

（事務局）補足として、RAG での決議 1 に関する実質的な中身の議論としては、勧告以外のレポート、ハンドブック、オピニオン等の手続きについて、例えば、レポートは勧告と比べて手続きを緩くしてもよいのではないか、といった議論がなされた。

## （2） SG1 ブロック会合の概要について

資料 7-2 の SG1 ブロック会合の概要について、事務局より説明が行われ、特にコメント等はなかった。

## （3） SG1 ブロック会合への対応について（日本寄与文書（案））

SG1 ブロック会合の日本寄与文書案の全体について、資料 7-3 に基づき事務局より説明が行われ、個別の日本寄与文書案について、専門委員及び関係者より、それぞれ説明が行われた。主な質疑応答は以下のとおり。

### ■資料 7-3-1～7-3-3 について

（専門委員）CG の活動に対していくつか提案をしていたが、今回の提案との関係はどのようなものか。CG への提案を補足するものか。

（関係者）CG への入力期限である 4 月末の時点で、1 月の情報通信審議会情報通信技術分科会電波利用環境委員会ワイヤレス電力伝送作業班の一部答申の内容を入力したが、電気自動車及び鉄道関係の共存検討がまだ国内審議中であった。本提案は、5 月 8 日に共存検討が合意されたことを踏まえ、CG への提案に追記する形で、WP1A に直接入力するもの。

（専門委員）一般論としては、CG に提案したものは CG 議長が責任をもって CG 議長レポートに反映させるので、議長の側からすると、反映したのになぜ出してくるのかと考えるため、寄書にその点の断りを記載するとよい。

（専門委員）3 件全てについて、CG への提案後に更なるアップデートをしたものであるが、念のために CG への提案を含めて全体を出すものであるとの旨が明確となるよう、寄書に記載いただきたい。

（関係者）了。

（専門委員）資料 7-3-2 と 7-3-3 の寄書は、添付文書として電子ファイルを埋め込んでいるが、埋め込み形式ではない 1 つのワードファイルとできるか。

(事務局) 対応可能である。

(専門委員) 資料 7-3-1 と 7-3-2 の寄書は密接なものであることから、1本にまとめるか、資料 7-3-1 の寄書から資料 7-3-2 の寄書を参照する形式にしてはどうか。

(関係者) 法制度の紹介の寄書と、その中で必要なエッセンスのみをレポートに追加する改訂提案の寄書なので、1本にするものではないと考えるが、資料 7-3-1 について、「適切にレポートの改訂において引用する」とするのではなく、具体的に修正提案は資料 7-3-2 の寄書である旨を記載する。

(専門委員) 資料 7-3-3 の寄書について、EV の周波数にはスクエアブラケットが付されているが、これは情報通信審議会で決定されると外すということか。

(専門委員) CG へ入力する際は必要であったが、5月8日の合意を踏まえて外してもよいのではないか。

(事務局) 一部答申が出ていないので微妙なところもあるが、日本として提出する際は外してもよいと考えている。

(専門委員) それでは、スクエアブラケットなしで提案するように。

(関係者) 了。

(専門委員) 研究課題 210/1 としては、WP1A で技術検討を行い、その結果を受けて WP1B でどのように周波数管理を行うか検討することとなっている。よって、本年は、3件とも WP1A と WP1B の双方に出して、WP1B の中では情報文書として扱うことがよいかと思うがいかがか。

(専門委員) アサインされていない文書は情報としても伝わらないことから、情報として必要であれば、WP1B にも入力した方がよい。

(専門委員) 承知した。このような扱いとしていただきたい。

(関係者) 了。

#### ■資料 7-3-4 について

(専門委員) 完成時期はいつ頃を想定しているのか。

(関係者) 今会合では作業文書から暫定新レポート案に格上げすることを目標としており、来年の会合において完成させることで考えている。

(専門委員) 今回の提案では、作業文書を全面的に書き換えているため、作業文書を暫定新レポート案に格上げしたいようであれば、ワーキンググループ内で 2016 年度に完成させる必要があるとのロジックを説明し、合意する必要がある。Introduction の項において、これまでの経緯や 2016 年に完成させる必要性を記載すると暫定新レポート案への格上

げ提案が通りやすいと考える。

(専門委員) 本文の第 6 章(更なる研究課題)に今後の課題が列挙されているが、技術的な紹介を早期にレポート化したいのであれば、課題が多いという印象をもたれないように、課題の特出しは控えた方がよいのではないか。また、作業文書の変更箇所があまりに多いので変更履歴を残さない方がよいとのことであつたが、過去の経緯を尊重する観点から変更履歴があつたほうがよいと考える。

(専門委員) カバーページになぜこのような文書を提案するのかについての説明を入れなければ、読んだ人には新しい文書に見えてしまうのではないか。

(専門委員) 今回の寄書作成にあたり、昨年度の Non BEAM のワイヤレス電力伝送(WPT)の寄書を参考にしたが、その際は変更履歴がなかった。

(専門委員) 本文の第 7 章(Summary)において、周波数帯が各国間で合意していないと記載しているが、周波数帯に関する議論は、各国間で当然に相違するものなので、「not agreed」との後ろ向きに見える表現とするのではなく、このレポートの周波数帯はサンプルであるとした方が前向きに見える。

(専門委員) 本文の第 6 章の見出しである「さらなる研究課題」について、レポートなので本文書内で全て完了する必要はなく、文中に更なる検討が必要な旨を記載することはよいが、見出しにはしなくてもよいのではないか。

(関係者) 書きぶりを見直す。

(専門委員) 本提案は、Non BEAM の WPT ほどは情報通信審議会等での審議が進んでいないが、2 年前に日本から BEAM の WPT のレポートを作成すべきとの提案をしていることから、クレジットは「日本」でよいか。

(専門委員) JAXA としては「日本」として提出したいのか。

(関係者) 「日本」として出すことを希望する。

(専門委員) 異論等はないようなので、「日本」として提出していただきたい。

#### ■資料 7-3-5 について

(関係者) 第 6 章の見出しを「情報」に修正することはよいと思うが、情報として扱うのであれば、RR5.565 の条文等の内容は削る必要がないのではないかと思う。

(専門委員) IEEE から入力されている寄書や更なる入力を踏まえて、RR5.565 の記述の是非は現地対応で見極めることとさせていただく。

(専門委員) 修正提案を行う一方、寄書に「the text is mature and stable」とあるのは矛盾しているように見える。

(専門委員) あくまで第 6 節は参考情報程度の扱いとして、まずは、会合で本

提案を承認していただいたいと考えているため、できる限り、変更事項は取り扱いたくないという考えである。

(専門委員) 第 6 節の見出しのみの修正とし、残りは現地対応としていただきたい。

(専門委員) 了。

#### ■資料 7-3-6 について

(専門委員) レポートの完成が前提だとすると、他の WP 等に何を求めるのが不明である。寄書を読んだだけでは、将来の改正のために情報が必要であるといった目的がはっきりと分らない。

(専門委員) これまで WP7C や WP7D としかやりとりを行ってこなかったが、レポートのユースケースとして、陸上移動業務や固定業務が含まれているため、WP5A や WP5C から意見を聞ききたく、また、興味を持っていただきたく考えている。明確化のため、その旨を「Introduction」の項に追記する。なお、レポートは、承認された場合の案と、承認されなかった場合の案を作成し、いずれの場合であってもリエゾン文書を送付したい。

(専門委員) WP5A 及び WP5C に来るという前提でリエゾン案にコメントすると、興味のある周波数帯を答えることは難しく、また、「もし分配がされたら」という前提で議論をすることも難しい。

(関係者) 今会合への IEEE からの入力で、酸素吸収や大気吸収のピークの点から、325GHz で一度切った方がよいとの提案をしてきている。

(専門委員) 分配には触れずに、技術的に 275-325GHz の情報を求めるといった書きぶりとしたほうがよい。また、リエゾン文書案の文末に「この件について進捗があったら知らせてほしい」としているが、他の WP はこの件について研究していないため、何をしてほしいか明確に記載すべき。

(専門委員) さらなるレポートの発展のために、継続的に情報交換をしたい、といった書きぶりに変更させていただく。

#### ■資料 7-3-7 について

(専門委員) 今会合と次回合のそれぞれで入力するのであれば、次回合にまとめて入力してもよいかと思うが、なぜ 2 回に分けるのか。

(専門委員) 前回の WP1B では、SRD の運用に関するアンケートが行うとともに、コレスポンスグループが設置されており、SRD のレポートの見直しの活動が開始されているところ、日本としての取組みを紹介するためである。

(専門委員) 本改訂提案を提出することは問題ないと思うが、キャリーフォワ

ードの提案を明記する必要はないと考える。  
(専門委員) 了。  
(専門委員) 時期を逸しているので、2010年に法改正されたといったことは記載せず、単に最新情報に更新するとだけ記載すればよいのではないか。  
(専門委員) 了。

■資料 7-3-8 について

(専門委員) 英文の4頁目に「recommends」の「1」があり、その後に「Note 1」があるが、この「Note 1」は「recommends」の「1」を参照する必要があるため、文末に「(see Note 1)」と記載すべき。また、「Note 1」は「Annex 2」を参照しており、「Annex 2」には「(Informative)」との記載があるが、通常このような記載はせず、「Note 1」において、「Annex 2 provides the information on ~」とするとよい。  
(事務局) 了。

■資料 7-3-9 について

(専門委員) コレスポネンスグループへの入力後、ローデシュワルツから反応などはあったのか。  
(関係者) 今のところは聞いていない。

■資料 7-3-10 について

特段なし。

(4) SG1 ブロック会合への対応について (外国入力文書審議表 (案))

資料 7-4 に基づき、5月8日(金)時点で入力された外国寄書の審議表について、積極的な対応を要するものを中心に事務局より説明が行われた。質疑応答は以下のとおり。

(専門委員) 1A/197 の IEEE からの 275GHz 以上の帯域の能動業務の技術動向の暫定新レポート案の提案への対処について、252-275 GHz に関する記述は削除し、「日本からも寄与文書を提出することになっており、上記 275 - 325 GHz の研究を積極的に支持すべき。」としていただきたい。  
(事務局) 了。

(専門委員) 外国寄書として入力されているものの範囲外であるが、WPT の

CG への入力について紹介していただきたい。

(関係者) CG 議長による暫定レポートによれば、CISPR、APT、EMA、日本、イスラエル、米国から 9 件の提案が入力されているが、米国からの入力は、日本から提案している勧告改訂提案と、書きぶりや周波数帯が非常に似ており、協力関係を築きうるので、様子を見ていきたい。また、韓国も追加の周波数帯を入れてほしいとのことで動きがある可能性があるのでは、注視していく。

(5) SG1 ブロック会合への対応について (対処方針 (案))

資料 7-5 に基づき、SG1 ブロック会合の対処方針案について、事務局より説明が行われた。質疑応答は以下のとおり。

(専門委員) 「4. 短距離無線通信デバイスに関する検討」のキャリーフォワードに関する記述は削除するように。

(事務局) 了。

(専門委員) 「7. 研究課題 ITU-R 214-3/4 『屋内雑音』」について、対処方針で「今後の改定作業が開始されるよう努める」とあるが、寄書提案の説明の際は、今会合で完了させることを目標するものかと思っただが、改定作業の開始のみでよいのか。

(関係者) 今回、初めて改定提案の入力を行うため、1 年は取り置かれるものと考えていることから、「開始されるよう努める」としている。

(専門委員) そのような意向であれば、勧告改訂案ではなく「暫定」をつけるのでは。

(専門委員) 「暫定勧告改訂案とするよう努める」といったところか。

(事務局) 書きぶりについて修正する。

※ このほか、参考として、ブロードバンドワイヤレスフォーラム (BWF) から入力される寄与文書「QUESTION ITU-R 210-3/1 ワイヤレス電力電送 (WPT) に関するリエゾンに対するレスポンス」の紹介がなされた。

(6) その他

事務局より、今後の扱いとして、本日のコメントを受けて寄与文書案等を修正する必要があるものについては、5 月 19 日 (火) 17:00 までに、修正版を事務局に送付することとされた。また、次回の周波数管理・作業計画委員会のスケジュールについて、SG1 ブロック会合の結果報告として、8 月から 9 月を目途に開催する予定であることが周知された。

以 上